山形県高校教育改革実行計画の策定に向けた市町村教育長懇談会　記録（概要）

１　日時・会場

学区	日時	会場
東学区	10 月 15 日（木）14：30～16：00	山形県庁 901 会議室
北学区	10 月 21 日（水）14：30～16：00	北村山地域振興局 102 会議室
南学区	10 月 22 日（木）14：30～16：00	シェルターなんようホール 練習室
西学区	10 月 16 日（金）13：30～15：00	庄内総合支庁 31 号会議室

２　参加者

・東学区８名　　・北学区 11 名　　・南学区８名　　・西学区５名

３　内　容

１　開会
（１）県教育委員会あいさつ

２　説明
（１）趣旨説明
（２）県高校教育改革実行計画骨子案

３　意見交換
テーマ：高校教育改革に求めるもの

４　閉会

４　発言要旨

○専門高校の機能強化・特色化

（北学区）

- 専門高校の機能強化・高度化には、一定数の生徒が在籍していることが必要だ。同種の高校の再編も検討してほしい。
- 専門高校に新たな学科やコースを設け、専門家による授業や地域と連携した商品開発など、実践的な学びを取り入れてほしい。
- 産業界の要請が高校教育の目標として強調されすぎないよう配慮してほしい。
- 専門高校の高度化を進めるうえで、教員の数や専門性が十分か確認してほしい。

（南学区）

- ものづくりの強みや大学等との連携を生かし、専門高校の学びを充実させてほしい。
- 産業系の学びは県立高校の強みであり、多様な生徒の進路や活躍につながる。

（西学区）

- 専門知識や技術を備えた人材を育成し、地域産業や社会に貢献する学校づくりを進めてほしい。

○普通科の特色化・探究的な学び

（北学区）

・　普通科の特色化に向けて探究的な学びを推進し、学びたいことや進学したい大学を自分の言葉で語れる生徒を育ててほしい。
・　探究学習を担う教員体制が不十分であると感じる。
・　各校の特色を生かしたカリキュラムづくりを大切にしてほしい。

（南学区）

・　地域間で学びの機会に差が生じないようにしてほしい。
・　高校改革に合わせて、その先の大学入試も変わってほしい。

（西学区）

・　普通科でも、地域資源を生かした学びや、地域の課題解決に取り組む探究学習を推進してほしい。

〇理系人材の育成

（東学区）

・　理系人材の育成は高校だけでなく、小中学校を含め社会全体で取り組む必要がある。
・　理系と文系の人数を同数にする目標と、文理融合の方針との関係を整理してほしい。

（北学区）

・　理系人材を増やすため、小中学校の段階から理系の魅力を伝えてほしい。
・　算数・数学を学ぶ楽しさを小中学校で味わわせ、基礎的な力を伸ばしたい。
・　保育所から小学校、中学校、高校、大学まで一貫した教育目標を設けてはどうか。

（南学区）

・　理系人材育成を強調することで、文系人材は育成しないという誤解が生じないようにしてほしい。

〇地域・産業界・大学等との連携

（東学区）

・　地域、地元企業、高校の連携を進めてほしい。
・　地域と未来につながる高校教育改革にしてほしい。

（北学区）

・　専門高校と大学との連携を通じ、高校卒業後も専門性を高め、専門家の育成につなげてほしい。
・　高校と産業界が連携する学びでは、地元企業のニーズと教育内容にずれがないか確認してほしい。
・　地域や企業と協働した実践的な学びを充実させてほしい。

（南学区）

・　高校と産業界の連携を調整する役割を誰が担うのか、明確にしてほしい。
・　高校が所在しない自治体においても、地域づくりの観点から、高校生と町との交流を検討してほしい。

・　地域産業と連携した専門高校の学びに期待している。即戦力の育成だけでなく、進学にも力を入れてほしい。

（西学区）

・　地域資源を活用した学びを通して、高校生の地元愛や地域貢献意識を育み、地元定着につなげてほしい。
・　大学・企業等との縦の連携とともに、全国の同じ学科との横の連携も進めてほしい。
・　外部連携を支える専門性のあるコーディネーターを配置してほしい。教員との兼任は避けてほしい。
・　県外からの生徒を受け入れる取組が、地域に新たな活力をもたらしている。地域みらい留学などを通じた交流を進めてほしい。

〇多様な学びと特別な配慮を要する生徒への支援

（東学区）

・　不登校など個別の対応が必要な生徒にとって、小規模校は選択肢となる。学びの多様化学校も検討してほしい。
・　特別支援学級に在籍していた生徒が普通高校へ進学する場合の支援体制についても記載してほしい。

（北学区）

・　高校でも、特別な配慮を要する生徒への指導に力を入れてほしい。
・　高校版の学びの多様化学校の設置を検討してほしい。

（南学区）

・　特別な配慮を要する生徒や不登校生徒が増えている。小学校から高校、就労まで連携した支援が大切だ。
・　高校版の学びの多様化学校などを設置し、多様な学びを提供してほしい。

（西学区）

・　不登校生徒には、メタバースの教室など ICT を活用した学びも必要だ。
・　ICT だけでなく、スクールソーシャルワーカーや教育相談員などの人員を配置し、個別対応の部屋やクールダウンできる部屋も整備してほしい。

〇ICT・遠隔授業による学びの保障

（東学区）

・　小規模校では、一人ひとりの進路希望に応じた教科指導が難しい。オンライン授業で補うことが大切であるが、その質も重要だ。
・　県立高校はチームとしての力があると思う。他校の授業もオンラインで受講できるようにしてほしい。

（南学区）

・　遠隔授業や ICT を活用した他校との協働的な学びは、小規模校の生徒が多様な意見に触れる機会となる。

〇地理的アクセスと通学支援

（東学区）

・　公共交通機関が乏しい地域では、通学費や送迎の負担が大きい。家庭の経済状況によって進学先の選択肢に差が出ないよう、県も支援してほしい。

・　学校統廃合の際は、スクールバスなどの通学支援を行ってほしい。

（南学区）

・　高校が所在しない自治体の家庭は通学負担が大きい。通学支援を検討してほしい。

（西学区）

・　高校がない地域では、交通の便やスクールバスの有無が進学先の選択に影響している。通学費や定期券などへの県の支援をお願いしたい。

〇中学校段階からのキャリア教育と進路選択

（東学区）

・　生徒や家庭が何を基準に高校を選んでいるのか分析してほしい。将来の進路につながるかどうかも、選択の重要な視点である。

・　生徒が高校を選ぶ時代であることを踏まえ、入学者確保策を考える必要がある。

・　地元高校への進学を促すため、小中学校との連携が大切である。高校生が出身小中学校でインターンシップを行う取組も有効だ。

（北学区）

・　中学校の進路指導を、テストの点数だけでなく、生徒が何をしたいか、将来どうなりたいかに着目したものに変えなければならない。

・　高校の類型や特色を踏まえ、中学生が進学後の見通しを持って高校を選べるようにしたい。

（南学区）

・　保護者が子どもの進路希望をそのまま受け入れる傾向になってきている。生徒・保護者が高校や将来について考えられるよう、早期の啓発が必要だ。中学３年生だけでなく、１・２年生を対象としたオープンスクールなど、早い段階から進路選択について啓発してほしい。

・　高校を卒業する際に、どのような高校が必要か、意見を聞いてほしい。

（西学区）

・　高校と地元中学校との連携を通して、地元高校の魅力や学びを知る機会をつくり進学につなげてほしい。

・　高校と小中学校が共同授業などを行い、小学校から高校までつながりのある教育を進めてほしい。

〇高校の魅力づくりと情報発信

（東学区）

・　高校教育改革の概要や各校の特色を、中学生や保護者にわかりやすく伝え、ホームページ以外の方法でも情報を届けてほしい。
・　当町では地元県立高校の魅力を発信するため、コーディネーターを置き、生徒の活躍を地域に定期的に知らせている。
・　地元県立高校の学びの魅力を、中学生だけでなく小学生や幼児にも伝えていきたい。
・　地元県立高校の総合学科や少人数での丁寧な指導は生徒に安心感を与えるものとして、在校生から魅力の一つに挙げられている。
・　「魅力ある高校」よりも「誇りに思える高校」の方がわかりやすい。

（北学区）
・　高校の類型ごとの特色や魅力を明確にし、中学生や保護者にしっかり周知してほしい。特色が伝わらないと、私立高校へ進学する生徒が増える心配がある。
・　県立高校の魅力を、幅広く発信してほしい。

（南学区）
・　高校教育改革について、中学生・保護者・県民への周知を積極的に行い、「とりあえず普通科」という意識を変えてほしい。
・　県立高校の役割や特色を強く発信してほしい。
・　文理にとらわれない新しい普通科のあり方も、誤解のないように伝えてほしい。

（西学区）
・　先導拠点校の成果を他校にも広げるとともに、施設整備も計画的に進めてほしい。
・　県立高校も通学支援や部活動などの魅力を高め、進学先として選ばれる学校を目指してほしい。
・　高校生が中学校と探究学習やものづくり体験で連携する取組を大切にしてほしい。

〇少子化への対応と高校の再編・定員

（東学区）
・　少子化を踏まえ、定員の縮小や学校の統廃合はやむを得ない。

（北学区）
・　少子化を踏まえ、地域の子どもの数に応じた高校の再編を検討する必要がある。
・　複数の高校で同じ進路ニーズに応えている場合は、地域全体の生徒数を踏まえて定員を検討してほしい。
・　小規模校への配慮が計画に盛り込まれていることは心強い。

（南学区）
・　小規模自治体の思いもくみ取ってほしい。
・　私立高校も含めて、県全体の高校教育や再編のあり方を検討してほしい。

（西学区）
・　中学校を併設する高校の定員を見直す際には、地域の市町立中学校への影響も考慮し、併設する中学校の定員も見直してほしい。

〇教育環境・教職員への支援

（北学区）

・　県立高校の施設を整備し、生徒にとって望ましい学習環境をつくってほしい。

・　改革を担う教職員の健康や、やりがい・モチベーションにも配慮してほしい。

（西学区）

・　改革を進めるために、教員研修を充実させてほしい。

・　改革に取り組む高校の教員のモチベーションを保てるようにしてほしい。

・　改革を継続するための安定した財源を確保してほしい。

〇高校教育改革の進め方

（東学区）

・　現在の課題を明確にし、その課題を踏まえて改革案を示してほしい。

・　子どもの成長を小学校から高校まで縦につなげて考えてほしい。

（北学区）

・　国の方針との整合性だけでなく、各高校の現場の声を丁寧に聞き、山形県の教育文化や特色を改革に反映してほしい。

・　外国人の高校生を受け入れる仕組みについても検討してほしい。

（南学区）

・　中高一貫校設置の検討については、期待される成果だけでなく、学力の二極化や教職員の負担、公立中学校への影響なども検証し、丁寧に説明してほしい。

（西学区）

・　実行計画骨子案は、社会の変化と高校教育の現状を踏まえたものとして評価できる。

〇その他

（北学区）

・　義務教育では、感性を育てることは、学力ともつながることであり、大切に扱っている。高校においても、より高度な芸術文化への関わりや学びの機会を設けてほしい。